



教研集会報告

1月30日(月)の18時より、法文学部棟2階多目的室において、第28回島根大学職員組合教研集会が開催されました。今年度の教研集会は「いきいきと働くことのできる職場を作っていくために 今年度の活動状況をふまえて考える」というテーマで行われました。当日は以下のようなプログラムで基調報告と各支部・専門部からの報告がありました。調査部からのアンケート結果は、教職員の実態・意識がわかる内容であり、多くの発言がありました。また、各支部からの活動報告には今後の組織拡大に向けて参考になる意見が多数あり、有意義な集会となりました(詳細は裏面に掲載)。

緊急署名活動を実施します!

そろそろ2006年度給与改悪の交渉も始まります。先日の中央委員会や教研集会において

「独立行政法人化後、生き残りをかけて一生懸命仕事をやっています。そして、苦勞の結果、黒字まで出しています。そのような状況で、なぜ給与が下げられねばならないのでしょうか？」

という声がありました。これは、多くの人が思っている事ではないでしょうか。このような声は学長交渉でも伝えてあります。しかし、まだ声は届きません。そこでそのような職員の声が大きくなるために、給与の大幅な不利益改定に反対する署名活動を緊急に行うことになりました(中央委員会や教研集会でもそのような意見が出ました)。

昨今、公務員に対するバッシングが大きくなり、その余波を受けて独立行政法人にも圧力がかかっています。最近新たに出てきた、今後5年間で5%の人件費を下げろ、というのもその一環です。我々がここで何か声を上げないと、さらに無理難題を吹き掛けられるでしょう。

そのような状況もありますので、署名をすることによって、組合員・非組合員を問わず、職員全体で声を上げ、職場の労働環境を守りましょう。請願内容は以下の通りです。

請願内容

- ・ 私たちは島根大学の職員に人事院勧告をそのまま適用するような大幅な不利益改定に反対します。
- ・ 「国立大学法人島根大学」として職員の給与改善に向けて自立的な経営努力を行なうよう要求します。

署名は2月20日から行う予定です。ご協力をお願いいたします。

教研集会詳細

基調報告

1. 2005年度人事院勧告に基づく給与問題についての組合の取り組み：瀬戸浩二氏（中央執行委員会書記長）
 - ・ 2005年度の改定について、実施時期を3月31日として実質的には今年度の給与減はしないという妥協案を学長から得たという成果の報告
 - ・ 2006年度以降の改定について、中期計画期間中に職員に支払うはずの給与と実際に支払われることになる給与の差額分（余剰金）の使い道を労使協定で決めるということを大学側に要求する組合の方針説明

コメント：全国の取り組み状況について：長山泰秀氏（全大教中央執行委員）

- ・ 給与問題に対する全大教および各大学の取り組み
 - ・ 全大教の組織拡大への取り組み
2. 島根大学職員組合アンケート調査報告：中央執行委員会調査部
 - ・ 8:30始業問題・・・出勤時間は従来と変わらない人が多いが、問題も生じている。
 - ・ 自家用車の公用車使用問題・・・使用者は多いが、登録者は少ないのが現状。

各支部・専門部からの報告

1. 生物資源科学部：組合員拡大策について：橋本哲氏
 - ・ 組織拡大への取り組み・課題
 - ・ 中執が組合員の総意で動いていると実感できるシステムが必要
2. 法文学部：組合員拡大に向けての考察 オセロゲームかもしれないー：吹野卓氏
 - ・ 組合に対する親近感、機会がどれだけあるかが重要
 - ・ 回りに左右される 組合員拡大の策はありうるのでは？
3. 教育学部：2005年度教育学部支部の活動について：秦昭徳氏
 - ・ 支部学習会の実施
 - ・ 学部長・支部長交渉の実施 初任給の格付けの問題、総務係職員のサービス残業の問題、労働環境の改善
4. 総合理工学部：島根大学職員組合総合理工学部支部活動報告：内藤貴太氏
 - ・ 学部長交渉実施 休日出張での代休
 - ・ 懇親会実施
5. 職員部：平成17年度職員支部の活動について：山崎文子氏
 - ・ ビジネスマナー講習会の実施
 - ・ 事務機構改革の問題点
 - ・ 学長との昼食会
6. レディース：島根大学における男女共同参画の現状：佐々木愛氏
 - ・ 島大は取り組みが遅れていることを学長が認めたのは成果であった。